

## ウミガメの憂鬱

# うみやま通信

## 小笠原の自然史

小笠原では、なじみの深いウミガメたち。そのウミガメの主食が、種類によって異なることをご存知でしょうか？

小笠原で繁殖するアオウミガメは海藻を主食とするベジタリアンです。内地沿岸で産卵するアカウミガメは主に甲殻類などを食べる肉食性。熱帯海域に生息するタイマイは、サンゴ礁の海綿類。そして、世界最大のウミガメであるオサガメはクラゲ類と、見事に海洋資源を食べ分けてます。

ウミガメが、広く外洋を回遊していることをご存知の方は、ひとつ疑問に思つかもしれませ

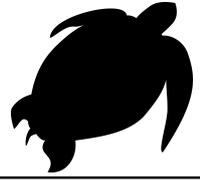
ん。外洋には、サンゴ礁も、海藻もないはず。大海原を旅するウミガメは、どの種類も同様に波間に漂う浮遊生物、つまりクラゲ類、魚卵、流木に付着しているエボシガイなどを食べているのです。

昨今、ウミガメにとって重大な問題が起こっています。ウミガメの食する浮遊生物は、海流の働きによって潮目を集められます。ところが、人間が投棄したり、河川などから排泄された浮遊性のゴミ類もやはり、同じ場所に溜まってしまいます。最近小笠原のアオウミガメの胃内容物を調べてみると、ゴミ類を

食べているカメが多いことに驚かされます。袋類、プラスチック容器や発泡スチロールなどの破片、はては漁網やロープまでが出てきます。カメによっては、ゴミで胃袋が一杯になっているものもいます。アオウミガメを水槽で飼育していると、風で飛んで入った白色や透明の袋を直ぐさま食べてしまうのを、何回も止めたことがあります。ウミガメ類は、人工の浮遊ゴミを、自然界の浮遊生物と間違えて食べてしまうようなのです。

ところで、ゴミを食べたウミガメは、どうなるのでしょうか？ 水槽に収容されたアオウ

# SEA



ミガメが、袋類を便と一緒に徐々に排出することは確認されています。しかし、摂取物の形によっては消化管で詰まったり、堅いかげらなどによって、消化管内壁が傷つくこともあるはずです。一昨年、父島海域で発見されたオサガメは、長い漁網を飲み込み、その一端を口から出したまま、飲むことも吐き出すこともできず、保護されなければ、危険な状態でした。このように、人知れず、死亡するカメは、どのくらいいるのでしょうか？

たい何時頃から、こんな事態に陥ってしまったのでしょうか？

最近、これら浮遊ゴミを、アホウドリ類が雛に与えているという事例が報告されました。雛の成長が阻害されると考えられています。ウミガメについての詳細な影響は調査が始まったばかりですが、ウミガメ類に限らず、海に関わって生きる様々な生物の生息環境を守っていくことの大切さは、周囲を海に囲まれた離島に生活する私たちが一番よく知っているはずです。

そして小笠原に住む私たちから、海の恩恵を受けるすべての人々に警告を発することができずにはありません。

決して、海にゴミを捨てないでください・・・と。

ほ

